



平成 19 年 10 月 12 日

各 位

大阪市中央区本町一丁目 1 番 4 号  
株 式 会 社 藤 商 事  
代 表 取 締 役 社 長 松 元 邦 夫  
(コード番号 : 6257)

(問い合わせ先)

上 席 執 行 役 員 管 理 本 部 長 桜 井 健 一  
電 話 06-6949-0323

**平成 20 年 3 月期 中間期および通期業績予想の修正に関するお知らせ**

最近の業績の動向等をふまえ、本年 5 月 14 日の決算発表時に公表いたしました平成 20 年 3 月期 (平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日) の業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

## 記

## 1. 平成 20 年 3 月期 業績予想の修正

(1) 中間期 (平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日)

(単位 : 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	15,700	2,080	2,130	1,150
今 回 修 正 予 想 (B)	9,680	△960	△900	△650
増 減 額 (B-A)	△6,020	△3,040	△3,030	△1,800
増 減 率 (%)	△38.3	-	-	-
(ご参考) 前期 (平成 19 年 3 月期中間) 実績	18,265	3,118	3,179	1,902

(2) 通期 (平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日)

(単位 : 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	50,800	7,750	7,840	4,600
今 回 修 正 予 想 (B)	40,900	3,440	3,570	2,030
増 減 額 (B-A)	△9,900	△4,310	△4,270	△2,570
増 減 率 (%)	△19.5	△55.6	△54.5	△55.9
(ご参考) 前期 (平成 19 年 3 月期) 実績	39,404	7,071	7,148	4,302

## 2. 修正の理由

### (1) 中間期（平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日）

当中間期のパチンコホール業界は、パチンコ参加人口の減少やパチスロ遊技機の新規則対応機（5号機）への本格的な移行などに伴い、収益・資金面では、当社が期初に想定した以上に経営環境の悪化が見られました。

その影響もあり、パチンコホールの新機種導入につきましては、確実に集客が見込める一部メーカーの機種に人気集中する一方、その他の機種については小規模な新台入替にとどまる傾向が強まりました。

加えて、パチンコホールの経営環境の厳しさから、新機種の入替に対する要求水準は高まっており、遊技機メーカー間の競争も激化しております。各社とも従前と比較して、短いサイクルで多数の遊技機を市場投入することにより同時期に販売される競合機種数が増加しており、全体的な傾向として1機種当たりの販売台数は減少しております。

このような市場環境により、パチンコホールへの大量導入を可能とするヒット機種の有無による業績への影響が、以前にも増して大きくなっております。

当社の中間期におけるパチンコ遊技機事業につきましては、70千台の販売台数計画を策定しておりましたが、販売見込みは約44千台となりました。

当中間期の販売台数計画および実績見込みは、以下のとおりであります。

中間期 機種別計画・実績見込み（パチンコ遊技機） (千台未満切捨て)

機種名	計画	実績見込み	差異
CRかっぱ伝説シリーズ	12千台	13千台	+1千台
CRプロジェクトAシリーズ	26千台	12千台	△14千台
CR島倉千代子の千代姫七変化シリーズ	22千台	12千台	△10千台
CRジュマンジシリーズ	10千台	4千台	△6千台
(前期発売機種)	-	1千台	+1千台
パチンコ遊技機 計	70千台	44千台	△26千台

機種別にみますと、第1四半期に発売いたしました当社オリジナルキャラクターを採用した、「CRかっぱ伝説」は、約13千台と、やや計画を上回りました。

続いて発売いたしました「CRプロジェクトA」シリーズ、「CR島倉千代子の千代姫七変化」がそれぞれ約12千台、「CRジュマンジ」シリーズが約4千台となり、すべての機種が計画値の50%程度の販売見込みとなりました。

これは、発売時の競合機種に比べ、当社機種の商品性が劣り、下半期にパチンコ新本体枠を投入することによる当社機種の買い控えと、パチンコホール業界の厳しい環境などによるものです。

パチスロ遊技機事業につきましては、中間期の販売台数計画6千台に対し、約1千台の販売見込みとなりました。当中間期の販売台数計画および実績見込みは、以下のとおりであります。

中間期 機種別計画・実績見込み（パチスロ遊技機） (千台未満切捨て)

機種名	計画	実績見込み	差異
パチスロ ブルース・リー	3千台	1千台	△2千台
(発売予定機種)	3千台	(未発売)	△3千台
パチスロ遊技機 計	6千台	1千台	△5千台

第1四半期に発売しました「パチスロ ブルース・リー」につきましては、他の多くの5号機同様、パチンコホールの評価が得られず、計画に対し、30%程度と低調でありました。

また、第2四半期に発売を予定していた1機種については、指定試験機関による型式試験の適合取得（注）が遅れたことにより、上半期は1機種のみでの発売となりました。

一方、利益面におきましては、販売の不振に加え、調達に長期間を要する部材のたな卸資産の廃棄損の発生などにより、大幅な損失となりました。

以上の結果、売上高、営業利益、経常利益および中間純利益が前回予想を下回る見込みであるため、業績予想を修正いたします。

(注) 型式試験の適合について

遊技機の製造・販売については、風営法等に定める「技術上の規格」への適合について、指定試験機関（財団法人 保安電子通信協会）による型式試験および各都道府県公安委員会による検定を受ける必要があります。

(2) 通期（平成19年4月1日～平成20年3月31日）

通期の見直しにつきましては、中間期までの販売見込みおよび型式試験の適合状況などをふまえ、通期の販売計画を下記のとおり修正いたしました。

パチンコ遊技機につきましては、当初下半期に4機種の新機種発売を予定しておりましたが、型式試験の適合取得が遅れたため、下半期の投入機種数を3機種に変更したことにより販売台数が減少し、通期では7機種で154千台の販売台数計画に修正いたしました。

上半期同様、パチンコホールとの経営環境には厳しさが予想されますが、下半期の第1機種目は新本体枠に移行するとともに、有力タイアップ版権による商品力豊かな機種を投入を予定しており、続く2機種につきましてもヒット機種としての要素を備え、オリジナリティ溢れる新機種を鋭意開発中であります。

また、パチスロ遊技機につきましても、型式試験の適合状況により、通期の投入機種数を当初の4機種から2機種に変更し、通期の販売台数計画を3千台に修正いたしました。

以上の結果、売上高、営業利益、経常利益および当期純利益が前回予想を下回る見込みであるため、業績予想を修正いたします。

販売台数・機種数

項目	中間期見込み		下半期計画						通期見直し	
	新機種 投入数	台数 (千台)	新機種投入数			台数(千台)			新機種 投入数	台数 (千台)
			当初	修正	差異	当初	修正	差異		
パチンコ遊技機	4	44	4	3	△1	130	110	△20	7	154
パチスロ遊技機	1	1	2	1	△1	9	2	△7	2	3

3. 配当金について

平成20年3月期の配当予想につきましては、本年5月14日に公表しましたとおり、中間配当1株当たり1,750円、期末配当1株当たり2,250円（うち、特別配当500円）に変更はございません。

以 上

※上記の業績予想につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因により、予想数値と異なる結果となる可能性があります。